

最近の激しい相場高騰の要因について一言で言えば、「日銀の金融緩和による円安&欧州経済危機などで売り込まれた反動が一気に出た」ということだろう。

それにしても凄まじい上げ方だ。例えば、金は昨年末大納会の安値を底として、3,800 円→4,600 円まで 800 円の上げ。1 枚当たり 80 万円の上げを演じているわけだ。

プラチナだと 3,400 円→4,500 円まで 1,100 円の上げ。原油は 48,000 円→60,000 円まで 12,000 円の上げ。ゴムも 260 円→340 円まで 80 円の上げ。穀物だけがそんなに上げていないが、それでもコーンで 2,000 円ほど、大豆で 6,000 円ほどの上昇となっている。

つまりは、どの銘柄だろうが、とにかく買っておきさえすれば儲かっているという状況なのである。証拠金で 5 倍程度は当たり前であり、これがわずか 2 ヶ月あまりの出来事なわけである。

当方としては、原油・ガソリンの青天井予告は出していたものの、まさかここまで円安が進んで、商品全体が高騰するという予測は立てていなかった。正直驚いているわけだが、これも相場だ。いずれは「山高ければ、谷深し」という事になるのではあろうが、週末の NY 市場も続伸しており、とにかく今は「もうはまだなり」という相場が続いている。

さて当方の使っているチャートは、相場のトレンドと勢力を判断するものとして「一目均衡表」と、買われ過ぎ・売られ過ぎを判断するものとして「相対力指数」を入れたものを使っているわけだが、週末現在の相対力指数は以下のとおり。

金 79.33、プラチナ 78.35、原油 85.54、ガソリン 87.75、灯油 84.27、ゴム 67.90、コーン 67.25、大豆 76.26 となっている。

通常は 30 ポイントが底、70 ポイントが天井と判断するわけだが、小さい相場なら 40 ポイント底値圏、60 ポイント天井圏で、スケールの大きな相場なら 70 ポイントに乗せてから加速がついて 80 ポイントへ、30 ポイントを割り込んでから 20 ポイントへ…という場合も稀にある。

ただしガソリンのように 87 ポイントなどという数字は滅多にお目にかかれないもので、パラジウムの解け合い時、昔の乾繭・生糸の仕手相場くらいしか記憶にないくらいだ。

ただし 10 年に一度、100 年に一度の相場でも、相場は相場だ。単純に「相対力指数が 70 ポイント以上なんだから、もう下がるだろう」という風に決めつけると、いわゆる「穴の毛まで抜かれる」パターンにならないとも限らない。10 回分の儲けを、一度の勝負で吐き出す事は、勝負事では良くある話だ。

だから今問題になっている AIJ 投資顧問の話なんぞも、相場界にはごろごろしている。ちょっと前には、ノーベル経済学賞をもらった人の会社だって吹っ飛んだじゃない！

世に大相場師と言われる人たちは、「何度も何度も失敗しながら、一つの大相場をものにして大儲けする」ものであるし、そういう大儲けの相場というのは「誰も買えない 70 ポイント→90 ポイントへの大相場」なのだろう。相場は理屈じゃない、「運・鈍・根」が必要と言われるゆえんである。

今、買いを持ち続けている人は、たまたま買っただけかもしれない。だが相場なんぞ常にたまたまであるし、いずれ天井をつけた時にたまたま売って大儲けする人も出るはずだ。だがその「たまたまも狙っていなきや出来ない事」で、勝負事というのは押しなべてそんなものだ。

つまり、心折れる事なく相場に取り組む…というのが肝要であろうかと思う。面白い展開になって来たな。

〔貴金属〕

今週の金の値動き

	2月限(当限)	前日比	12月限(先限)	前日比
2月20日	¥4,438	30	¥4,450	30
2月21日	¥4,465	27	¥4,479	29
2月22日	¥4,527	52	¥4,527	48
2月23日	¥4,577	60	¥4,586	59
2月24日	¥4,594	17	¥4,600	14

金相場は、先週号においては『円安を支援材料として続伸中の相場であるが、ここは押しが入るまでじっと我慢。押したら買いたろうが、このまま高ければ天井での売りを狙いたい』とコメントした。

今週の相場展開は、更に続伸した相場が4,600円台まで上昇。6本連続の陽線であり、相場上昇に加速が付いてきた状況である。

○東京金日足

…削除済み…

3,808円(12/30) → 4,618円(2/24)まで810円幅の上昇である。2/27付となる夜間取引ではなお続伸し、4,630円まで記録。上げ幅は更に拡大であり、「もうはまだなり」を地で行く展開が続いている。

上値抵抗線は昨年9月の4,754円しか残っておらず、そこまであと100円強の値位置である。こうなったら一度それを付けちゃった方が良いのかもしれないが、そうすると世の中は「さあ、5,000円だ！6,000円だ！」と更に騒ぐのだろう。

相対力指数は79ポイントまで来ており、かなりの異常事態。目先だとしても天井が付けば少なくとも400円～500円押すだろう事は確実に、当方は週明け2月限発会から売り狙いである。

…中略…

なお一代の動きは以下のとおり。

東京金一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2012年2月	¥3,763	2月24日	¥4,750	9月7日	¥3,535	3月18日	¥4,594
2012年4月	¥3,970	4月26日	¥4,751	9月7日	¥3,807	12月30日	¥4,593
2012年6月	¥3,909	6月28日	¥4,754	9月7日	¥3,810	12月30日	¥4,596
2012年8月	¥4,506	8月29日	¥4,754	9月7日	¥3,808	12月30日	¥4,599
2012年10月	¥4,229	10月27日	¥4,617	2月24日	¥3,808	12月30日	¥4,600
2012年12月	¥4,037	12月26日	¥4,618	2月24日	¥3,808	12月30日	¥4,600

○NY金日足(2/23現在)

…削除済み…

週末2/24のNY市場は、前日比9.9ドル安の1776.4ドル。NY市場での相対力指数は前日で69ポイントであり、東京市場のような加熱感はない。

それでも円安が更に進行して81円台となっているため、国内換算では15時半比32円高である。

NY 金も 2/3 の高値は突破したわけだが、未だ 1800 ドル台には届かず。昨年 9 月の高値である 1920 ドル台はかなり遠い。

よって国内市場での買い方の儲けは、ほとんどが為替要因によるものだと言えるだろう。…中略…

買い方の一部には、今後はこの NY 金が過熱して 2000 ドルを目指し、よって東京も 5000 円台になるのだ！という意見もある。

しかし当方は、相場は必ず上がったたり下がったりするものなのだから、東京市場が下がる時は為替の反転で…。つまり 76 円程度までの円高が来たりして、400 円程度の調整を入れる…というのを考えている。

CFTC 発表の 2/21 現在のファンドのポジションは、…中略…

また 2/24 現在の ETF 残高は、…中略…

結論として当方の相場観は、来週の高値水準では打診売りをしてみたい。おそらく調整安が出る場合は為替の反転であるが、現状の相対力指数ではさすがに買われ過ぎとの判断である。

今週のプラチナの値動き

	2 月限(当限)	前日比	12 月限(先限)	前日比
2 月 20 日	¥4,208	57	¥4,225	54
2 月 21 日	¥4,249	41	¥4,266	41
2 月 22 日	¥4,366	117	¥4,392	126
2 月 23 日	¥4,535	69	¥4,465	73
2 月 24 日	¥4,414	-21	¥4,457	-8

プラチナ相場は、先週号においては『そろそろ大きな押しが来るのではあるまいか。しかし基本は買い相場であり、そう遠くないうちに金よりも高くなる時期が来るものと想定している』とコメントした。

今週の相場展開は、押し目らしい押し目もなく上昇した相場が 22 日に急騰し、週末は 4,500 円に接近。更に値を切り上げた。

○東京プラチナ日足

…削除済み…

3,376 円 (12/30) →4,494 円 (2/24) まで 1,118 円幅の上昇。ついに大納会の底値からの上昇幅は 1,000 円を軽く突破した。

残るは昨年 9 月の 4,700 円台しか残されていないわけだが、相対力指数は 78 ポイント台まで上がっている。

週末の夜間取引では…中略…

期待した押しはなく、当方の想定外の円安進行で上がり続けている相場であるが、逆に言えば下がる場合は為替の円高への反転なのだろう。

ドル/円の相対力指数も 81 ポイントという異常値を付けており、円安が終了して円高となれば、商品市場は一斉に下がる事となるのだろう。

…中略…

一代の動きは以下のとおり。

東京プラチナー代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2012年2月	¥4,817	2月24日	¥4,997	4月11日	¥3,351	12月30日	¥4,414
2012年4月	¥4,826	4月26日	¥4,921	5月6日	¥3,363	12月30日	¥4,429
2012年6月	¥4,445	6月28日	¥4,770	8月23日	¥3,370	12月30日	¥4,435
2012年8月	¥4,581	8月29日	¥4,726	9月7日	¥3,380	12月30日	¥4,450
2012年10月	¥3,918	10月27日	¥4,488	2月24日	¥3,375	12月30日	¥4,454
2012年12月	¥3,605	12月26日	¥4,494	2月24日	¥3,376	12月30日	¥4,457

○白金－金価格差日足

…削除済み…

週末現在のサヤは、4,457円（プラチナ）－4,600円（金）＝－143円。

結果的に12/8の－547円が逆ザヤのピークだったわけで、このサヤチャートでの相対力指数は62ポイント台と過熱感はない。

トレンドは完全に反転しており、いずれはプラチナの方が金よりも高い時代に戻るのだろう。

結論として当方の相場観は、反転下落するとすれば、為替の円高反転が起きた時であろう。しかし基本的には、金とのサヤを詰めてゆくトレンドには変化なしと思われるため、突っ込んだところは買いが良いと考える。

〔穀物〕

今週のコーンの値動き

	5月限(当限)	前日比	3月限(先限)	前日比
2月20日	¥25,750	360	¥23,880	190
2月21日	¥25,700	-50	¥24,200	320
2月22日	¥25,630	-70	¥24,160	-40
2月23日	¥25,840	210	¥24,200	40
2月24日	¥25,800	-40	¥24,080	-110

まずはコーンから…

先週号においては『目先はチャートの良さに飛び乗ってみたい。ただし他商品が反落、もしくは円安が終了すれば大きく下げるだろうから、スピーディーな対処が必要となるだろう』とコメントした。

今週の相場展開は、24,310円(2/23)まで上昇。先週末から更に600円強の上昇を演じたわけだ。

○東京コーン日足

…削除済み…

円安効果+他商品高の影響で、さすがにコーンも上昇である。2月崩しどころか、逆に21,000円台の底値からは3,000円ほど上げてきた相場である。

しかし石油や貴金属などに比べればその上げ幅は小さく、相対力指数も70ポイントには届いていない。これはコーン自体には強材料よりも、今年の米国は作付面積が増加するだろうとかの弱材料の方が多き事が要因だろう。

…中略…

怖いのは理屈抜きの循環買いであり、他商品が反落した時にうまく買い方が利食いした資金が割安な穀物市場に流れることだが、そうした場合は今の石油のように70ポイントを抜けてなお高い相場になるはず。それはそうってから、再度考えれば間に合うだろう。

なお一代の動きは以下のとおり。

東京コーン一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2012年5月	¥27,970	4月18日	¥29,360	4月21日	¥22,000	11月28日	¥25,800
2012年7月	¥28,180	6月16日	¥28,560	8月30日	¥22,110	12月15日	¥25,740
2012年9月	¥27,440	8月16日	¥28,550	9月13日	¥21,930	11月28日	¥26,170
2012年11月	¥24,400	10月17日	¥24,750	11月10日	¥21,110	1月1日	¥24,000
2013年1月	¥21,790	12月16日	¥24,120	2月23日	¥21,650	12月16日	¥23,950
2013年3月	¥23,290	2月16日	¥24,310	2月23日	¥23,060	2月16日	¥24,090

○シカゴコーン日足(2/23現在)

…削除済み…

週末2/24のシカゴ市場は、中心限月の3月限で前日比1.25セント高の640.75セント。国内換算では15時半比260円高である。

アウトルックフォーラムで米農務省は、今年の生産高を142億7000万Buと予測。これは昨

年実績の 123 億 5800 万 Bu を大幅に上回る数字である。

作付面積予想を大幅に増加させたことが主因だが、一方で需要は大した伸びを予想しておらず、**期末在庫は 8 億 100 万 Bu→16 億 1600 万 Bu に倍増する予測**を出している。

これでも下がらなかったのは、…中略…

CFTC 発表の 2/21 現在のファンドのポジションは…中略…

結論として当方の相場観は、ファンダメンタルズでは買い目はない。怖いのは円安進行と循環買いであるが、それが逆の目になれば一転して暴落だろう。戻り売り方針に再び転換である。

今週の大豆の値動き

	4 月限(当限)	前日比	2 月限(先限)	前日比
2 月 20 日	¥33,510	-190	¥41,940	40
2 月 21 日	¥33,260	-250	¥42,390	450
2 月 22 日	¥33,610	350	¥42,270	-120
2 月 23 日	¥34,120	510	¥42,580	310
2 月 24 日	¥34,200	80	¥42,560	-20

続いて一般大豆です…

先週号においては『押し目買いと吹き値売りの両面作戦を良しと見る。今のシステムは両建てに証拠金は掛からないので、そうやって売り買い両方を持ってあんこの両建てとしたい。いずれ両方利食い出来るだろうから』とコメントした。

今週の相場展開は、続伸した相場が週末には **42,900 円まで記録**。今週も 1,000 円ほど水準を切り上げた。

○ 東京大豆日足

…削除済み…

円安&他商品高の影響を受けて、36,000 円の底値からは 6,000 円ほど上昇してきた相場である。

ただしこれは順ザヤ相場で先物が高いために、実態以上に上がっているように見えるだけだ。

下の一代の動きを見れば一目瞭然だが、当限 4 月限・6 月限は安値から 3,000 円の上げ、8 月限・10 月限で 4,000 円、12 月限は 5,000 円、先物 2 月限は元々高い値位置から始まり、2,000 円ほど上げているだけなのである。

よって 6,000 円幅の上昇といっても、実際にそれだけ利が乗っている人は存在しないわけだ。

そうは言ってもチャートは右肩上がりであり、…中略…

なお一代の動きは以下のとおり。

東京一般大豆一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2012年4月	¥50,170	4月18日	¥51,180	4月21日	¥31,200	12月16日	¥34,200
2012年6月	¥49,820	6月16日	¥49,910	9月5日	¥33,600	12月16日	¥36,510
2012年8月	¥47,450	8月16日	¥50,110	9月5日	¥35,610	12月15日	¥39,500
2012年10月	¥44,250	10月17日	¥44,250	10月17日	¥36,410	12月15日	¥40,860
2012年12月	¥37,500	12月16日	¥41,800	2月24日	¥36,830	12月16日	¥41,670
2013年2月	¥41,900	2月16日	¥42,900	2月24日	¥41,050	2月16日	¥42,560

○シカゴ大豆日足 (2/23 現在)

…削除済み…

週末2/24のシカゴ市場は、3月限で2.25セント高の1279.00セント。円安であるため、東京市場15時半比では420円高である。

シカゴもチャートは悪くなく、右肩上がりの格好である。相対力指数はちょうど70ポイントに到達した辺りだ。

アウトックフォーラムで米農務省は、大豆の生産高を32億5000万Buと予測。これは昨年実績の30億5600万Buから2億Bu上回る数字であるが、需要も好調で期末在庫は2億7500万Bu→2億500万Buに7000万Bu減少すると発表。

期末在庫倍増予想としたコーンとは真逆の展開であり、如何に大豆は南米産の影響が大きいとはいえ、ファンズはコーン売り・大豆買いを仕掛けたくなる状況だろう。

大きく付いている順ザヤも、この影響が大きいのだろう。

なおCFTC発表の2/21現在のファンズのポジションは、…中略…

結論として当方の相場観は、ファンダメンタルズではコーンよりも強い状況だ。押し目買い、吹き値売りの両面作戦を継続を続けたい。

[ゴム]

今週のゴムの値動き

	2月限(当限)	前日比	7月限(先限)	前日比
2月20日	309.5	9.4	326.8	8.7
2月21日	312.9	3.4	328.4	1.6
2月22日	321.0	8.1	337.6	9.2
2月23日	320.0	-1.0	337.5	-0.1
	3月限(当限)	前日比	8月限(先限)	前日比
2月24日	323.0	3.0	339.9	

先週号においては『327.3円(2/9)で天井を打っているかもしれない。しかし現状ではまだ300円割れの相場は難しく、しばらく320円を挟んだもみ合いか。ただし310円割れなら近日中に出るのでは?』とコメントした。

今週の相場展開は、円安&商品市場全体の高騰の影響がゴム市場にも波及し、一気に340円台まで上昇。週末に出た先物は、342.8円の高値まで記録である。

○東京ゴム日足

…削除済み…

年明けの258.7円(1/5)→342.8円(2/24)までの上昇幅は、84.1円にも拡大した。

元々の上昇のきっかけとなったタイの市場介入については3月にずれ込み、実際に行われるのかどうかは不透明になった。

しかし今回の上昇は、大きく進んだ円安とギリシャに対する第2次追加支援の決定、世界的な金融緩和からリスク資産が大きく買われたことなど、円安・株高・商品高の影響である。それが340円台相場の実現につながったわけだ。

正直言って、相場を完全に読み違えたと認めざるを得ない。所詮は戻り売り、327.3円で天井を打っていると見ていたのだから…。

相対力指数はまだ67ポイント台であり、他商品ほどの過熱感も無い中で、昨年10月の327.9円を突破、介入があつての最大価格340円をも突破したのだから、もしかすると上げも終わったかもしれない。しかし逆に出遅れなのかもしれないし、曲がった相場は一度撤退であろう。曲がり屋というやつは、途転で買えば今度はそれでヤラれるものだしね…。

なお一代の動きは以下のとおり。

東京ゴム一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2012年2月	362.2	8月26日	379.0	8月31日	246.0	11月11日	320.0
2012年3月	318.7	9月27日	327.9	10月17日	247.5	11月11日	323.0
2012年4月	292.5	10月26日	329.4	2月24日	248.6	11月11日	325.6
2012年5月	266.0	11月25日	333.8	2月24日	256.9	1月5日	331.1
2012年6月	279.6	12月22日	337.4	2月24日	258.7	1月5日	334.5
2012年7月	324.0	1月26日	340.6	2月24日	307.5	1月31日	337.8
2012年8月	340.7	2月24日	342.8	2月24日	339.6	2月24日	339.9

当先のサヤは、3月限323.0円～8月限339.9円と16.9円の順ザヤ。順ザヤ幅は若干縮小した。

週末現在の輸入採算価格は、…中略…

国内営業倉庫在庫は、2/10 現在で 223 トン減の 14,011 トン。2 旬連続の減少である。

上海ゴム在庫は、…中略…

上海ゴム価格は、もみ合いから上放れして 29,000 元台へ。東京市場と同様の軌跡を描いている。

結論として当方の相場観は、商品市場への買い人気はゴム市場にも影響し、一気に 340 円台へ駆け上がったわけで、完全に曲がり屋になった状況につき、敗軍の将は兵を語らずである。次の展開が読めるまで、ノーコメントだ。

[石油製品]

今週の原油の値動き

	2月限(当限)	前日比	7月限(先限)	前日比
2月20日	¥57,220	270	¥57,740	660
2月21日	¥57,160	-60	¥57,740	0
2月22日	¥57,200	40	¥58,580	840
2月23日	¥57,580	380	¥58,820	240
2月24日	¥57,580	0	¥59,640	820

まずは原油から…

先週号においては『「もうはまだなり」の相場が続くだろう。陰線が1本入れば買い場であろうし、外部環境が変わらない限り、値頃感を無視して買い進む相場であろう』とコメントした。

今週の相場展開は、NY原油は続伸。週末は109.95ドルと110ドルに接近する状況となっている。

東京原油は、2月に入って陰線が出たのは2/14のみ。今週も陽線が続いた相場は、ついに6万円台も超える限月が続出である。まさに青天井の展開。

○ NY原油日足 (2/23 現在)

…削除済み…

週末2/24のNY市場は、前日比1.94ドル高の109.77ドルで終了。高値は109.95ドルまであり、年初来高値を大きく更新である。

国内換算では夜間取引の上昇分で織り込み済みだが、円安もあり、15時半比380円高である。

NY原油も大きく上がり始めたわけだが、ロンドンブレントは125ドル台、ドバイ原油は123ドル台まで上昇している。どの油種でも、結局また5ドルほどの上昇を演じているわけだ。

ゴールドマン・サックスは、北海ブレントで夏場には140ドル目標とぶち上げており、そうするとNY原油は125ドル目標となる。これはイラン核開発問題のリスクの高まりのピークが、6月～7月に来るとの見方からの意見のようだ。

まさかホルムズ海峡封鎖とはならないと思うが、…中略…

○NY原油週足 (2/23 現在)

…削除済み…

昨年の高値は114ドル台。過去最高値は2008年の147ドル台。そこから大暴落したのは、リーマンショックからの信用収縮であり、今の上昇はリスク資産への資金流入ということ。

なお2/21現在のファンドのポジションは、…中略…

○東京原油日足

「53,000円と来れば吹き上がっても不思議ではない」とした相場は、ついに6万円台まで上昇。2本目は61,000円台である。

先物でも8,000円～9,000円の上昇であり、一番上げている2番限は底値から17,000円も上昇しているわけだ。一口で17,000円と言うが、1枚当たり50倍であるから85万円の値動きである。凄まじい！

警戒すべき点は、相対力指数が85ポイント台と更に異常な値を示している事。さすがに円高

などで調整があった場合は、それ相応の激しいものになると想定しておかなければならないだろう。一発で3,000円下げるとかのね…。

なお今年の高値を更新中の原油であるが、**昨年の高値は63,500円台。史上最高値は2008年の95,000円台**であると覚えておかねばならない。

なお一代の動きは以下のとおり。

東京原油一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2012年2月	¥52,500	9月1日	¥57,580	2月23日	¥44,550	10月5日	¥57,580
2012年3月	¥45,770	10月3日	¥61,350	2月24日	¥44,390	10月5日	¥61,260
2012年4月	¥50,630	11月1日	¥60,910	2月24日	¥48,130	12月19日	¥60,860
2012年5月	¥51,720	12月1日	¥60,480	2月24日	¥47,910	12月19日	¥60,450
2012年6月	¥51,590	1月4日	¥60,090	2月24日	¥51,100	1月4日	¥60,040
2012年7月	¥51,290	2月1日	¥59,680	2月24日	¥51,040	2月3日	¥59,640

全限一代高値の更新中である、まさに青天井の相場である。

結論として当方の相場観は、円安の調整が来れば急落するのは必至。よって買いは増やせないし、目先は調整期待である。しかし調整完了後は、更なる高値に舞い上がっても不思議ではなく、まずは63,000円台、最終的には7万円相場と読む。

今週のガソリンの値動き

	3月限(当限)	前日比	8月限(先限)	前日比
2月20日	¥70,650	660	¥71,720	710
2月21日	¥70,920	270	¥71,930	210
2月22日	¥71,930	1010	¥72,760	830
2月23日	¥72,710	780	¥73,250	490
2月24日	¥73,330	620	¥73,950	700

続いてガソリンです…先週号においては『押し目買いの展開はまだ続くだろう。天井を打つ時は、川下の価格も上昇してテレビで騒ぐ時だろう。寡聞にして、そういうニュースはまだ見ていない』とコメントした。

今週の相場展開は、続伸した相場が**74,000円台**まで記録。16営業日連続で舞い上がっている相場であり、2月に入ってからだけでも9,000円の大暴騰中である。

○東京ガソリン日足

…削除済み…

チャートでは完全に上放れした後、今週だけでも3,000円は舞い上がった展開。

下の一代の推移を見れば一目瞭然だが、先物でもおよそ1万円の上昇。期近なんぞ安値から18,000円も上がっているわけで、これは1枚当たり90万円替えである。10枚もあれば、1000万円コースだ。

ただし相対力指数は87ポイント台という異常数値を記録。16営業日も連続で上がれば、当然こうなる。ルーレットで赤が出続けているような状態だ。

だからそのうち黒も出るのだろうが、さてどこでどのくらい下がるか…。

相場なのだから、永遠に上がるばかりというのはおかしいわけで、必ず調整安の時も来るわけだ。だが、原油相場が140ドル目標とか言われる中では、いずれは10万円相場になるのかもしれない。

れず、イラン問題の解決&円安の終了&経済危機の再勃発がなければ、売りトレンドにはならないと考えたほうが良いだろう。

一代の推移は、以下のとおり。

東京ガソリン一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2012年3月	¥61,280	8月26日	¥73,580	2月24日	¥55,800	10月5日	¥73,330
2012年4月	¥58,900	9月26日	¥75,530	2月24日	¥57,260	10月5日	¥75,450
2012年5月	¥62,380	10月26日	¥75,600	2月24日	¥59,350	11月22日	¥75,410
2012年6月	¥61,020	11月28日	¥75,280	2月24日	¥60,510	12月19日	¥75,080
2012年7月	¥61,750	12月26日	¥74,730	2月24日	¥62,500	12月30日	¥74,530
2012年8月	¥66,800	1月26日	¥74,130	2月24日	¥64,920	2月3日	¥73,950

全限一代高値の更新である。

2/24 現在の業者間転売価格は、…中略…

2/18 現在のガソリン在庫は、…中略…

結論として当方の相場観は、指数は異常値を示しており、近日中に調整安はあるだろう。しかし大勢では買いのままだろうし、春～夏場に向けての大相場はまだ続くだろう。

今週の灯油の値動き

	3月限(当限)	前日比	8月限(先限)	前日比
2月20日	¥72,130	560	¥69,040	820
2月21日	¥72,560	430	¥69,080	40
2月22日	¥73,770	1210	¥69,900	820
2月23日	¥74,600	830	¥70,640	740
2月24日	¥74,940	340	¥71,250	610

最後に灯油です…先週号においては『過剰在庫は完全払拭。ジェット燃料の輸出も好調で、元売りの増産にも関わらず灯油とともに在庫は減少。これではガソリンよりも目先のファンダメンタルズは強いという事も考えられ、遅ればせながら押し目買い参戦が良いだろう』とコメントした。

今週の相場展開は、今週だけで3,000円超の続伸。71,000円台まで上昇であり、原油・ガソリンを追いかけて青天井突入である。

○東京灯油日足

…削除済み…

64,000円から頭の重い展開が続いていた相場は、大元の原油高、関連商品のガソリン高の影響+寒波による需要好調から一気に舞い上がって71,000円台へ。あっという間に7,000円を駆け上がったわけで、昨年12月の安値からだとも1万円幅を優に超える上げである。

いよいよ在庫溜め込み限月の9月限が週明けスタートとなり、今後最大需要期の1月限が出る5ヵ月間は面白い展開になるのだが、さすがに相対力指数値が高すぎる。現在は84ポイント台まで上がっており、もしも順当に9月限が順ザヤで発会するようなら、さすがに発会天井になるまいか？

買いは買いだろうが、さすがに一呼吸調整を入れてから、また仕掛ける相場と考えたい。

なお一代の推移は、以下のとおり。

東京灯油一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2012年3月	¥64,150	8月26日	¥75,100	2月24日	¥58,670	9月26日	¥74,940
2012年4月	¥59,490	9月26日	¥72,700	2月24日	¥57,250	10月5日	¥72,560
2012年5月	¥61,740	10月26日	¥71,780	2月24日	¥59,010	12月19日	¥71,690
2012年6月	¥62,400	11月28日	¥71,350	2月24日	¥58,700	12月19日	¥71,270
2012年7月	¥61,750	12月26日	¥71,150	2月24日	¥50,660	12月30日	¥71,090
2012年8月	¥63,840	1月26日	¥71,360	2月24日	¥61,870	2月3日	¥71,250

灯油もすべて一代高値の更新中であり、青天井の図式。

2/24 現在の業者間転売価格は、…中略…

2/18 現在の灯油在庫は、…中略…

結論として当方の相場観は、指数調整の押しが入ったら、すかさず買う相場であろう。今年の春は、石油製品の需給はかなり厳しくなると考えていた方が良さそうである。

[為替]

○ ドル/円相場日足

…削除済み…

週末の NY 市場では更に円安が進み、81 円台に乗せている。昨年の日銀の介入価格も完全にオーバーし、78 円と来たところから完全にトレンドも変化している。

もっとも相対力指数はすでに 81 ポイント台で、異常な数値を示している。どこかで調整は入るのだろうか、さて一体どこでなのか？

○ ユーロ/円相場日足

…削除済み…

円は対ユーロでも円安が進んでおり、週末の NY 市場では 109 円台まで円安となっている。

ドル/円相場がすでに昨年 10/31 の安値を更新しているわけで、ユーロ/円も 111 円台をオーバーしようとしているのかもしれない。

ただし相対力指数は、ドル/円と同様に異常値となっている。どこで調整が入るか？

○ ユーロ/ドル相場日足

…削除済み…

ユーロ/ドルも、トレンドはドル安・ユーロ高に転換である。なぜユーロが強いのかの理屈を見つけるのは難しいが、チャートではそうなっている。

このトレンドが続くと、ドルベースの商品相場が上昇するわけで、国内の円安も続くようなら W で強くなる事になる。

1

このレポートは、私が個人的な判断で書いたものです。

内容の責任はすべて私に帰するものですが、取引に対する利益を保証するものではありません。

(当たり前ですが念のため)

ひげの中ちゃん相場情報

中田幸一郎

メールアドレス info@higenaka.com